

事業の背景・目的

洞爺湖には、ウグイやヨシノボリなどの在来種や、絶滅危惧種のイトイバラモやチトセバイカモなど希少な水草などが生息している。2005年のウチダザリガニの発見以降、生息域内では水草やスジエビ等の在来種は激減した。地域を上げて洞爺湖固有の生物多様性を保全するため、洞爺湖生物多様性保全協議会を設立しウチダザリガニの防除に取り組んできた。しかしながら、近年、ウチダザリガニの生息域は洞爺湖一円に拡がりつつあり、限られた予算の中で最大限効率的な捕獲方法などの手法を確立することが急務であり、生物多様性保全推進支援事業を活用し、将来的な防除体制づくりを行う。

事業の内容

- 事業① 洞爺湖水草生息状況調査
- 事業② ウチダザリガニ連続捕獲装置の実践投入
- 事業③ ウチダザリガニの捕獲調査
- 事業④ 洞爺湖で捕獲されたウチダザリガニのデータ収集及び分析
- 事業⑤ 地域における生物多様性保全の意識醸成のための啓発活動

- 事業① 潜水調査により調査する。
- 事業② 現時点で最も効果的な捕獲手法であるため、昨年度に引き続き導入する。
- 事業③ 継続した捕獲調査を実施する。

- 事業④ ウチダザリガニのデータ分析を専門家に依頼し洞爺湖における生物多様性を保全するための体制づくりを強化する。
- 事業⑤ 外来種が及ぼす生態系への影響など啓発活動に努める。

得られた成果

- ・ウチダザリガニの影響により洞爺湖の生物多様性は危機的な状況にある。ウチダザリガニを過年度より継続して捕獲していることにより個体の平均重量は小さくなり小型化していることが今年度の事業でも成果として表れた。
- ・絶滅危惧Ⅰ類のカタシャジクモとフラスコモが確認され、絶滅危惧Ⅱ類のイトイバラモとササエビモが確認された。今年度の事業でいままでも洞爺湖では確認されなかった水草を4種発見した。
- ・今年度も実践導入したウチダザリガニ連続捕獲装置は、捕獲したザリガニの引上げが1週間に1度とすることが可能であり、作業効率が大幅に向上した。